



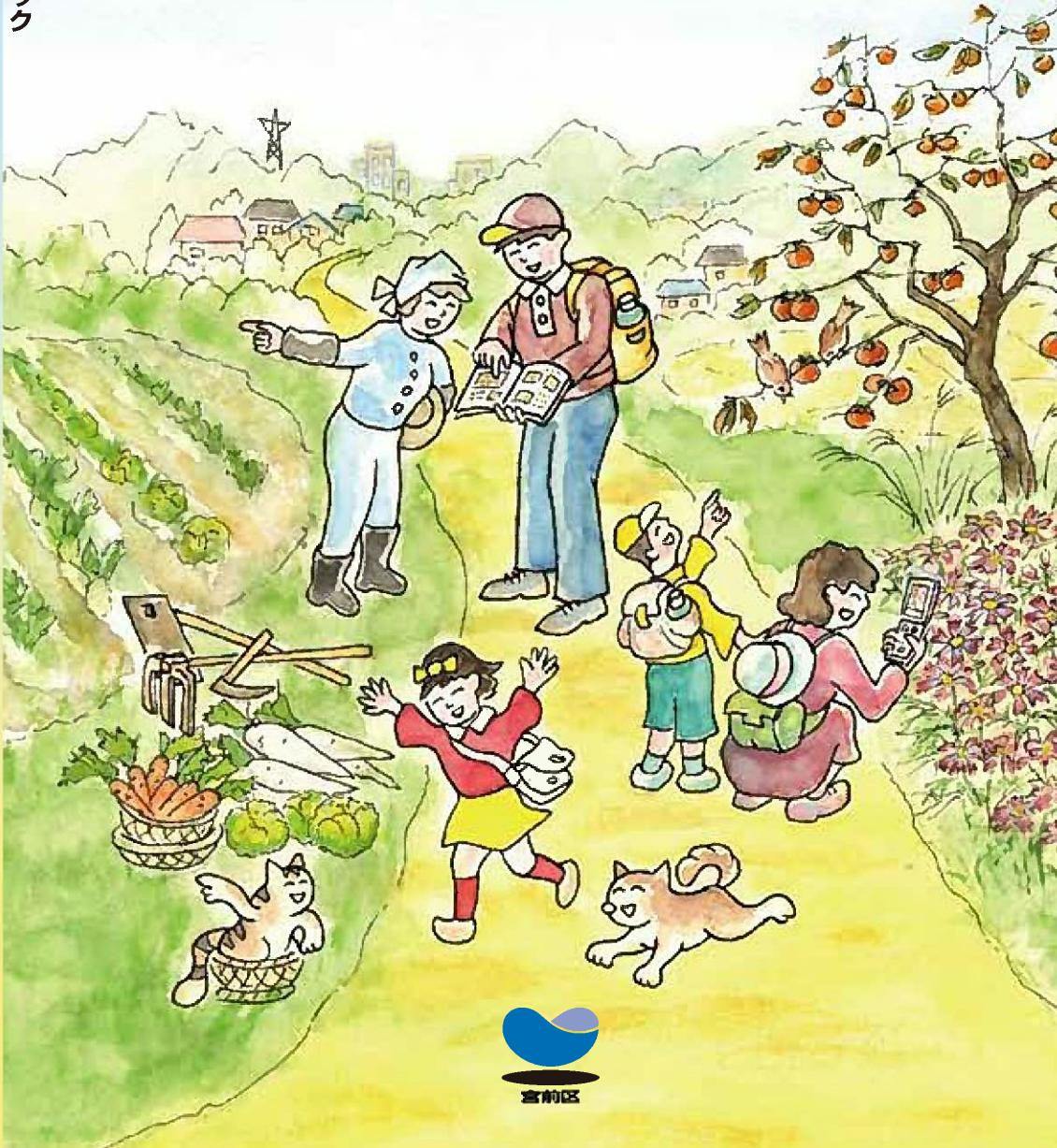
人が好き・緑が好き・まちが好き



宮前区ガイドブック

# 宮前区ガイドブック

ガイドブック片手に出かけよう





## 区全体

- P2-3 宮前区全体地図  
 P4-5 宮前区について  
 P6-7 歴史のあるまち宮前  
 P8-9 宮前区の民俗芸能  
 初山の獅子舞（ししまい）、禰宜舞（ねぎまい）、野川雜子、土橋万作踊り、有馬雜子、有馬大正踊り八木節、白幡八幡大神平雛子連中  
 P9 地名の由来  
 P10 宮前区の坂道  
 二つの八幡坂（土橋の八幡坂、有馬の八幡坂）、時代に翻弄された庚申坂、坂の今、昔 小台坂  
 P11 宮前区の街道  
 鎌倉街道、大山街道、王禅寺道  
 P12 宮前区の川  
 平瀬川、矢上川、有馬川  
 P13 宮前区の谷戸（やと）  
 飛森谷戸（とんもりやと）、鶴ヶ谷（つるがやと）、鷺沼谷（さぎぬまやと）、権六谷戸（こんろくやと）、【コラム】谷戸の語源  
 P14-15 宮前区のイベント  
 祭り!みやまえ太鼓ミーティング、宮前区民祭、【コラム】歳時記みやまえ  
 P16-19 宮前区の春夏秋冬  
 P20 数字で見る宮前区  
 P54 【コラム】みやまえカルタ  
 【コラム】宮前区の講  
 （大山講、御嶽講）  
 P71 【コラム】宮前区内にある石造物の豆知識  
 P72 川崎、宮前の農産物  
 かわさきそだち  
 P73 連絡先  
 ふれあいネット  
 かわさき生活ガイド（市民便利帳）  
 P74-77 索引  
 P78-79 バス路線図  
 P80 区のシンボルマーク、区の木・区の花、区のキャッチフレーズ、宮前区誕生30周年記念ロゴマーク・キャラクター  
 P81 編集後記



## 菅生・平エリア

- P21 菅生・平エリア  
 ~水と緑の里~  
 P22-23 菅生・平エリア地図、歳時記  
 P24-25 公園  
 ①菅生緑地（市民健康の森）東地区・西地区（水沢の森）②生田緑地③生田緑地南遊園④菅生ヶ丘特別緑地⑤西長沢公園⑥鶯ヶ峰子供の里公園⑦菅生子ども文化センターの冒険遊び場⑧平4丁目公園⑨宮前美しの森公園  
 P26-28 自然  
 ⑩尻手黒川道路の並木道（ナンキンハゼの並木道）（ユリノキ並木と遊歩道）⑪けやき平のケヤキ並木⑫おし沼線のケヤキ並木⑬南平のイチョウ並木⑭秋月院の樹木⑮初山団地の八重桜⑯平瀬川上流域のサクラ⑰薬王庵の咲き分けツバキ⑱平のケヤキ⑲白幡八幡大神のクスノキ⑳妙楽寺のアジサイ（多摩区）㉑水生植物観賞池㉒西長沢浄水場  
 P28-30 神社・仏閣  
 ㉓等覚院㉔妙楽寺（多摩区）㉕白幡八幡大神㉖八雲神社（天王社）㉗菅生神社㉘犬藏天神社㉙本遠寺㉚長安寺㉛秋月院㉚東泉寺㉛薬王庵  
 P31-32 まちのスポット  
 ㉜川崎市中央卸売市場北部市場㉝川崎市消防総合訓練場㉞宮前スポーツセンター㉟ヨネッティー王禅寺（麻生区）㉟聖マリアンナ医科大学病院㉞菅生子ども文化センター㉟宮前市民館菅生分館㉛東名トンネルアート㉝浄水場通りの子ども大壁画【コラム】コミュニケーション・プラザ川崎（掲載は「鷺沼・宮崎エリア」）P49  
 P33 伝承  
 菅生太鼓連、初山十王堂  
 五所塚と稚児の松  
 P34-36 お散歩コース  
 市境西コース P34  
 ①平瀬川沿いコース／  
 ②とんもり・生田緑地コース P35  
 犬藏・土橋コース P36



## 鷺沼・宮崎エリア

- P37 鷺沼・宮崎エリア  
 ~人と緑のまち~  
 P38-39 鷺沼・宮崎エリア地図、歳時記  
 P40 東急田園都市線3駅  
 宮崎台駅、宮前平駅、鷺沼駅  
 P41 カッパーク鷺沼  
 （鷺沼ブル今昔）  
 P42-43 公園  
 ①県立東高根森林公園②神木公園③宮崎第1公園④宮崎第4公園⑤土橋1丁目公園⑥土橋2丁目公園⑦鷺沼北公園⑧鷺沼公園⑨小台公園  
 P44-45 自然  
 ⑩サクラ並木⑪イチョウ並木⑫ユリノキ並木⑬ナンキンハゼ並木⑭東名川崎IC付近の花壇⑮小台のイロハカエデ⑯泉福寺のイチョウ⑰泉福寺のサルスベリ  
 P45-47 神社・仏閣  
 ㉑泉福寺㉒馬絹神社㉓八幡神社㉔土橋神社㉕正福寺㉖千手堂㉗神木天満宮  
 P47-49 まちのスポット  
 ㉕フロンタウンさぎぬま㉖電車とバスの博物館㉗宮前市民館㉘宮前図書館㉙宮崎小の壁画アート㉚三叉の庚申様㉛馬絹古墳㉜宮崎大塚㉝お化け灯籠㉞川崎市青少年の家㉞宮前老人福祉センター  
 P50-53 お散歩コース  
 大山街道コース P50-51  
 馬絹コース P52  
 長尾・神木コース P53



## 有馬・野川エリア

- P55 有馬・野川エリア  
 ~歴史と緑の里~  
 P56-57 有馬・野川エリア地図、歳時記  
 P58-59 公園  
 ①有馬ふるさと公園②有馬中央公園③有馬こども公園④有馬さくら公園⑤南野川ふれあいの森⑥野川ふれあいの森  
 P59-62 自然  
 ⑦影向寺のイチョウ⑧影向寺のサルスベリ⑨東有馬2丁目のカキ⑩野川 梅の里⑪下有馬不動尊周辺のウメ⑫有馬さくら公園のサクラ⑬東有馬のハナミズキ⑭つげ・もみじの里⑮野川のケヤキとチノキの並木⑯有馬のトウカエデ並木⑰中有馬のユリノキ並木  
 P63-65 神社・仏閣  
 ㉑影向寺（ようごうじ）㉒能満寺（高津区）㉓野川神明社（韋馱天社）㉔西藏寺㉕長善寺㉖下有馬不動尊㉗有馬神明神社㉘福王寺  
 P66-67 まちのスポット  
 ㉙JR梶ヶ谷貨物ターミナル駅㉚JR梶ヶ谷貨物ターミナル駅下のトンネルアート㉛子育て地蔵㉜有馬の馬頭観音㉝十三坊塚㉞有馬大塚㉟アリーノ（有馬・野川生涯学習支援施設）㉞宮前休日急诊診療所  
 P68-71 お散歩コース  
 峯道（みねみち）・有馬南コース P68  
 有馬北コース P69  
 たちばなの里・野川コース P70-71



## 宮前区全体地図



## 宮前区について

宮前区は昭和57年7月、高津区から分かれて誕生し、川崎市では一番新しい区。平成24年に30周年を迎えた。人口は約22万人(平成24年8月現在)、川崎市7区のうち中原区に次いで2番目に人口が多い。面積は18.6km<sup>2</sup>、川崎市では4番目の広さで、東京都の新宿区とほぼ同じ大きさの区である。

川崎市北西部のなだらかな丘が続く多摩丘陵の東の端に位置する。区の北は多摩区・高津区、東は高津区、西は麻生区、そして南は横浜市都筑区・青葉区に接している。区の西端、潮見台あたりが区内で一番標高が高く106m、昔はそこから横浜方面の海が見えたという。

区内には3つの川が西から東に流れている。一番北を流れる平瀬川は水沢地区を源流とし、菅生・平を流れて多摩川に合流する。区内の中心部を流れる矢上川は犬藏周辺を源流とし、尻手黒川道路沿いに馬絹・野川を流れ、日吉で鶴見川に合流する。一番南を流れる有馬川は鷺沼4丁目(鷺沼谷・さぎぬまやと)周辺を源流とし、有馬を流れ、高津区千年の五反田橋で矢上川と合流する。



緑ゆたかな平瀬川上流

これらの川に挟まれて、宮前区は丘陵や坂、谷戸(やと)などで構成された起伏に富んだ地域であり、「台・沢・川・沼」、またそれらに栽培された稗(ひえ)、自生する菅(すげ)、あるいは放牧されていた馬などの付いた地名がある。

### ベッドタウンとしてのまち宮前

宮前区は東京都心から30km圏内にあることから住宅向けに土地区画整理事業が進められ、東急田園都市線3駅・東名高速川崎インターチェンジ・第3京浜道路などの交通の利便性とあいまって、東京のベッドタウンとしての役割を果たしている。宮前区の夜間人口に対する昼間人口の比率は約70%で、市の他区より一段と低く(川崎市全体平均は約87%)ベッドタウンとしての性格がうかがえる。

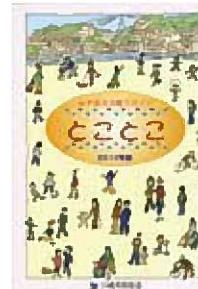
### 子どもが多いまち宮前



冒険あそび場づくりの活動

宮前区住民の平均年齢は41.2歳(平成23年)、7区の中で4番目の高さである。しかし年少人口(0歳~14歳)は14.9%(平成23年)と、子どもたちの割合は川崎市の中で最も高い区である。休日などには、小さな子どもの手を引く家族の姿をよく見かける。また子育てグループ活動が活発で、公園、こども文化センター、宮前市民館、地域子育て支援センターを拠点として活動している。

「子育てガイドとことこ」は、子育て情報が満載で、子育てを支援することを目的に、現役ママや地域の方々、子育て関係機関が一緒になり区民協働で作られた。区役所こども支援室で入手できる。



子育てガイドとことこ

### 公園や緑の多いまち宮前

多摩丘陵の姿を生かした「県立東高根森林公園」や里山を残した「水沢の森(菅生緑地・西地区)」をはじめ区内には198箇所(平成22年3月)の公園緑地がある。これは麻生区に統一して市内で2番目に多い。また野菜や植木の生産緑地も多く(宮前区は川崎市内で生産緑地面積第1位。第2位は多摩区)、直売所を通して地元農家が栽培した新鮮な野菜を手に入れることもできる。なお「農産物直売所Guide & Map」が宮前区まちづくり協議会から発行されている。

区役所地域振興課で入手できる。



平成23年から区民会議の提案を受け、区内の公園で冒険あそび場開催を推進している。テニスや野球ができる公園(要予約)や定期的に体操を開催している公園もあり、子どもだけではなく大人も楽しむことができる。



公園体操を行う人たち

### 坂のまち宮前

宮前区は谷戸や坂が多く、富士見坂など区民公募で愛称が付けられた坂だけでも18箇所、八幡坂など昔から名が付いている坂を含めて「宮前歴史ガイド(宮前区歴史文化調査委員会発行)」には38箇所の坂が記されている。

坂は歩くのが大変だが、景観に変化を与え、見晴らしの良い所も多い。また坂道をウォーキングすることで筋力向上や健康増進に繋

(つな)げることができる。これらの坂をもっと楽しもうと、平成24年度には区から「みやまえ坂道ウォーク」が発行された。



### 市民活動が盛んなまち宮前

川崎市の中でも宮前区は市民活動が盛んなところで、イベント・自然保護・環境美化・福祉・子育て・防災など幅広い分野で活動している。平成9年、区民・企業・行政などからなる委員会により「宮前区区づくりプラン」が策定され、引き続きそのプラン実現のため区づくりプラン推進委員会を設立。平成17年には宮前区まちづくり協議会となり、まちづくり活動の支援を行っている。

宮前区役所1階に設けられた「区民活動支援コーナー」は川崎市でも最も早く区民活動の拠点として開設され、さらに向丘出張所、ふれあいスペース宮前、アリーノ(有馬・野川生涯学習支援施設)などが活動拠点として利用されている。宮前区まちづくり協議会発行の「宮前区市民活動応援マップ」には、区内にある市民活動団体が利用できる32施設が詳しく掲載されている。また、区内152の市民団体の活動を紹介する冊子「みやまえ市民活動のなかま」も作られ、区役所地域振興課で手に入れることができる。



区民活動支援コーナー

## 歴史のあるまち宮前

### 太古の遺跡

区内には、川崎市で最古の石器が出土された鷺ヶ峰遺跡（旧石器時代、約3万年前）や菅生水沢遺跡・菅生遺跡（縄文時代、約1万年前）、鷺沼遺跡（縄文時代、約5000年前）のほか、多くの遺跡が見つかっており、大昔から人々の営みが行われていた。

高津区の久本・末長・新作・千年・子母口などに貝塚があることから6000年ほど前には地球温暖化が進み、溝口あるいは野川あたりまで海が入り込んでいたと考えられている。鷺沼遺跡では釣りのオモリやウキ、タイの骨などが出土している。野川まで釣りにかけていたのであろうか。



鷺沼遺跡

### 古代

7世紀になり大和政権のもと国・郡・郷の行政区画が整備されて、この地域は武藏国橘樹（たちばな）郡に属した。武藏国の国府は府中に置かれ、橘樹郡の役所である郡衙（ぐんが）は野川の影向寺（ようごうじ）の近く高津区千年伊勢山台に置かれたと推定されている。

また区内では馬絹古墳をはじめとしていくつか古墳も見つかっている。7世紀後半、当時の在地豪族あるいは首長の墓と推定される。

### 中世

鎌倉時代になると、多摩丘陵は幕府にとって北の守りを固める重要な地域となり、生田緑地の枠形山には稻毛三郎重成により城が築かれた。稻毛三郎は北条政子の妹を妻に

迎え、源頼朝の重臣であった人である。そのためもあってか、区内には土橋の村名や茶筅（ちゃせん）松・鞍掛松など、源頼朝に関連する伝承の場所や、平の白幡八幡大神など源氏ゆかりの地が多い。鎌倉と関東近郊を結ぶ鎌倉古道も、いく筋か区内に残っている。

### 江戸時代の村々

江戸時代、宮前区の地域は橘樹郡稻毛領に含まれ、文化・文政の頃、幕府により編さんされた『新編武蔵風土記稿』によると、野川・有間・梶ヶ谷（一部）・馬絹・土橋・長尾（一部）・平・下菅生・天真寺新田の村々に分かれていた。川沿いの低地には水田が開かれていたが、丘陵地は畑や竹林・雑木林で炭なども焼かれて江戸に運ばれていた。村には名主がいて、村の中心には幕府が決めた法度や掻（おきて）を知らせる高札場が設けられていた。

東海道の脇往還として、野川村を通る中原街道や馬絹・土橋・有馬の諸村を通る矢倉沢往還が整備され、人馬の通行も増えてきた。矢倉沢往還は、煙草・鮎・炭・木綿・干し魚などを相模・駿河・伊豆方面から江戸に運ぶ輸送路としても重要な道路であった。矢倉沢往還は大山道とも呼ばれ、大山に詣でる人たちでも賑わった。

### 明治から大正にかけて

明治5(1872)年に学制が施行されるとともに、向丘小学校の前身である化育（かいく）学舎が創立された。引き続いて明治6年から10年にかけて、盛隆（せいりゅう）学舎（野川）、現在の宮崎小学校の前身である鳴鶴（めいかく）学校（馬絹・有馬・土橋）、化育・経綸（けいりん）学校（長尾・平）、初山学舎（菅生）などが相次いで開かれ、教育制度が整ってきた。明治22(1889)年に市制・町村制が施行され、梶ヶ谷・野川・馬絹・有馬・土橋の各村と溝口村の飛地が合併された宮前（みやさき）村と、平・長尾・菅生・上作延の各村と下作延の飛地が合併された向丘（むかおか）村の2村となり、從来の村は大字となった。

大正13(1924)年に川崎市が誕生したが、宮前村と向丘村が川崎市に編入されたのは昭和13年になってからである。

大正2(1913)年には、大山街道の二子から荏田の間に幌つきの馬車が走るようになり、また大正12年に有馬の村道を乗合自動車が走り、村の交通も少しづつ便利になってきた。

### 戦争の足音

昭和15年頃から、旧陸軍は演習場を設けるために用地の接收をはじめた。宮崎・神木・鷺沼あたりを含む現宮前区の約3分の1にあたる地域を軍用地とし、陸軍東部62部隊の本部や兵舎が現在の宮崎中学校・川崎市青少年の家・虎の門病院分院付近に置かれた。また鷺沼4丁目の鷺沼北公園には東京空襲のために飛来する米軍機に対する探照灯が、宮前平3丁目のハ幡坂上には高射砲陣地が、それぞれ置かれていた。



今も残る軍用地境を示す石標

### めざましい開発

終戦により軍用地として接収されていた土地が住民に農地として売り渡されたが、道路の整備や区画整理が進み、高度成長期を迎えて住宅開発も始まり、農地は次第に減少していった。昭和28(1953)年、城西南地区開発趣意書が発表され、野川第一土地区画整理組合をはじめとしていくつかの区画整理組合が設立され大規模な開発が始まった。

昭和41(1966)年には東急田園都市線が溝の口から長津田まで延長され、区内には宮崎台・宮前平・鷺沼の3駅が開設された。その後昭和43(1968)年には東名高速道路が開通、第

3京浜道路などともあいまって、静かな郊外であったこの地域は大きく発展していった。

昭和47(1972)年、川崎市が政令指定都市となった際に高津区の一部となつたが、その後の人口増加が著しくなり、昭和57(1982)年に分区され宮前区が誕生した。



宮前区誕生セレモニー（「新しい市政の発展にむけて—川崎市行政区再編成の記録—」川崎市から引用）

昭和50年頃には水田はほとんどなくなり、野菜、梨・メロンなどの果物、ハナモモなどの花卉（かき）の栽培が中心となり、谷戸や丘陵地も一戸建てやマンションが立ち並ぶようになった。しかしあつての農地は生産緑地として今でも多く残り、野菜や植木の栽培が続けられている。また民族芸能や、大山講・御嶽講・庚申講などの庶民文化は住民にいまも引き継がれている。



御嶽講の狼の護符

### 宮前歴史ガイド

宮前区歴史文化調査委員会が宮前区の歴史と文化を掘り起こしてとりまとめた『宮前歴史ガイド』を発行している。宮前区の歴史年表とともに、区内の歴史的旧跡・遺跡・石造物や旧村界が示されている。区役所地域振興課で入手できる。



## 宮前区の民俗芸能

区内伝承の民俗芸能は、保存会7団体により川崎市民俗芸能保存協会に加盟し、守り伝えられている。

初山の獅子舞 はつやまのししまい

初山の獅子舞は、伝承も記録も残されていない。現在、保存会が継承する獅子頭の一つは、川崎市教育委員会の調査の結果、江戸時代初期のものと推定されている。奉納舞で使われる獅子頭は、江戸時代中期・後期のものとされている。

獅子舞は、剣獅子・玉獅子・巻獅子と天狗の面をつけた幣負い(へいおい)の4人が1尺の土俵で舞う。土俵内で身体を中腰に構え、膝を曲げて、地をはうように舞うのが特徴。この4人は未成年者の長男に限られ、地元・菅生中学校の生徒も、天狗や三頭獅子役で出演する。

初山の獅子舞は、当初、初山正八幡社に奉納されていたが、明治末期に菅生神社に初山正八幡社が合祀(ごうし)されたあとは、菅生神社祭礼に奉納されることになった。現在、獅子舞は初山獅子舞保存会によって保存されている。

平成13年には、県の無形民俗文化財に指定されている。なお、初山正八幡社跡は飛森(とんもり)谷戸にあり、ボランティアの手により整備されて、周辺地域の人々の憩いの場となっている。

襦宜舞 ねぎまい

襦宜舞の起源は明確ではないが、慶長5(1600)年、徳川家康が関ヶ原の戦いに出陣する際、戦勝祈願を願い、平村の白幡八幡社の神主であった小泉家に「太々神樂」を舞わせたのが始まりと言われ、今日に至っている。

襦宜舞は神主ひとりの舞で、締め太鼓一つだけの伴奏で行われる。舞の特徴は、問答が無いことである。鈴を鳴らしながら奏上す

る素面による四方祓(しほうはらい)の舞で始まり、面、衣装、持ち物を取り替えて五座の神々の舞を舞う。神主・小泉家に伝わる一子相伝の舞であるが、昭和53(1978)年、川崎市民俗芸能保存協会の結成を機に、保存会が作られた。

野川囃子 のがわやし

江戸時代末期、高津区坂戸や横浜市都筑区北山田町に伝わる囃子を習い覚えた人が、明治10(1877)年頃に野川の地に伝えたのが始まりと言われる。居囃子と狐(きつね)の種まき、えびすの鯛釣(たいつり)などの囃子神楽があり、明治から昭和にかけた時代に、村祭りなどで盛んに演じられていた。戦争で中断したが、昭和45年に保存会が結成され復活した。

土橋万作踊り つちはしまんざくおどり

江戸時代末期、王禅寺に住む飴(あめ)屋が、現在の横浜市青葉区保木の人たちに教えたものを大正時代の初めに習い覚え、念仏講の夜に踊ったのが始まりと言う。

万作踊りは、飴屋踊り、粉屋踊り、あるいはオイトコ節とも言われる。江戸時代の末期から明治時代にかけて関東地方の南部から各地に広まったもので、土橋万作踊り・瀬田の唐橋・島田金谷・新川踊り・芝山内・勝五郎箱根山・大津絵などである。昭和初期以降は廃れていたが、昭和22(1947)年に復活した。

有馬囃子 ありまはやし

明治時代末期に、現在の横浜市都筑区北山田町に伝わる山手囃子を継承したもので、有馬神明神社を中心に継承されてきた。戦後中断したが、昭和49(1974)年に地元の人々の熱意によって復活した。踊り手無しの居囃子には、ハヤ・カマクラ・ミヤカマクラなど、踊りにはハヤ・カマクラ・インペアガリなどがあり、順番に演じられる。下有馬不動尊で練習を重ねており、有馬神明神社のお祭りなどで奉納される。

## 有馬大正踊り八木節

## ありまたいしょうおどりやぎぶし

大正時代初期、有馬の青年が東京の浅草で全盛を極めていた「八木節」を持ち帰り、地域の娯楽として紹介したのが始まり。娘たちが長襦袢(じゅばん)を着て華やかに舞つたことから、今でも衣装には色鮮やかなものが使われている。また囃子方や踊りにも特徴があり、蛇の目傘や花笠を使うなど、有馬独特の八木節になっている。歌詞には、八木節が誕生したころの有馬の姿や祭のにぎわいなどが歌い込められている。西有馬小学校に保存会がある。

## 白幡八幡大神平囃子連中

## しらはたはちまんたいじんたいらはやしれんちゅう

明治30(1897)年頃、平の有力者が現在の横浜市都筑区山田町から神楽師を迎へ、平に伝わるお囃子に段ものを取り入れたのが始まり。戦後、都市化が進む中で、二度中断を余儀なくされたが、昭和61(1986)年からは小学生による子ども囃子も結成された。白幡八幡大神の祭礼や地域の催しなどで活躍している。

囃子に使われる楽器は、5つの楽器「笛・太鼓・小太鼓2つ・鉦(かね)」を使う居囃子のほか、段ものには狐(きつね)の種まき、獅子(しし)のこより通しや悪魔払いの舞があり、両面踊りも取り入れられている。



## 地名の由来

地名の由来には諸説あるが、ここでは、その代表的な説を紹介する。

| 宮前区 | 明治22(1889)年、梶ヶ谷・野川・馬絹・有馬・土橋・溝口村の飛地を合併して、宮前(みやさき)村が誕生した。宮前村の呼称は、馬絹の大字宮ノ前にちなむ。宮前区が高津区から分区した際、この名称を採用し、「みやまえ」と呼ぶことを決めた。

| 梶ヶ谷 | 谷戸が多い地形から付けられた説、鍛冶にちなむ説、カジの木に関係した説などがある。詳細は不明。

| 馬 絹 | 古くは馬絹を「マキヌ」と読み、牧野(牧場)に由来すると言う。

| 鷺 沼 | かつて鷺沼谷(さぎぬまやと)の谷底には湿地が広がり、白鷺(さぎ)が飛来したと言う。

| 土 橋 | 鎌倉道を通った源頼朝が、土の橋を架けさせたことに由来すると言う。付近には近年まで、鞍掛松・茶筅(ちゃせん)松などの松の大木があった。

| 有 馬 | 江戸時代には有間とも書かれた。馬は當て字である。全国の有馬地名と合わせて考えると、未開発地を示す地名か。

| 犬 戒 | 犬は低地を表す言葉。かつて犬は「イノ」とも発音された。「イノ」は湧(わ)き水か。戻は谷・崖を指すと言う。

| 菅 生 | スゲが生えた土地を意味する。以前、平瀬川流域は曲流し低湿地が広がっていた。

| 水 沢 | 平瀬川と矢上川の水源地。菅生緑地付近には、清水頭と呼ばれる湧水地があった。

| 稗原(ひえばら) | ヒエを栽培していたと言う説、「冷たい原」と言う説がある。

| 初 山 | 正月の山入れの初山から付けられたと言う説がある。

| 平 | 「新編武蔵風土記稿」は、平の領主・葛原平から生まれたと言う。平瀬川の沖積地に広がる平地が地名の由来か。

| 神木(しづく) | 日本武尊(やまとたけるのみこと)による神木伝説、あるいは古代の牧に関係した新牧説がある。地形から見ると、平瀬川の湿地帯から付けられた可能性もある。

| 五所塚 | 五つの塚に由来する。塚は災難除け、平将門の乱で戦死した朝廷方の將軍、長尾影虎の從者が討死したなどの諸説が残る。

## 宮前区の坂道

### ～坂道から宮前区の歴史を知る～

宮前区には坂が多い。「宮前歴史ガイド」にも38の坂が紹介されており、それぞれに特徴がある。ここでは歴史があり今でも人気がある、旧大山街道にスポットを当てて紹介する。(大山街道コースP50～51参照)

#### 二つの八幡坂 はちまんざか

宮前区には同じ名前の坂がある。一つは宮前郵便局から宮前平駅前へ下る「八幡坂」、もう一つは「フレルさぎ沼」の裏側にあるみすほ銀行の横を通り国道246号線へ下る「八幡坂」だ。

#### 土橋の八幡坂

平成13年2月に区で坂の愛称を募集し、駅前に八幡神社があることから八幡坂と名付けられた。急坂だが、イチヨウ並木が美しく景色を楽しみながら歩くことができる。現在までに数回ルートを変更しており、かつて坂の両側は土手で木が鬱蒼(うっそう)と茂り、湧(わ)き水が出ていた。またかなりの急坂で、荷車が下るときは車輪を縛って輪止めを行っていた。



土橋の八幡坂

#### 有馬の八幡坂

坂の名称である八幡社は、現在近くの民家に移されている。かつて坂の途中には蹄鉄(ていてつ)を作り馬の医師をしていた伯樂があつた。また坂の下方には出店があり、江戸時代にはお菓子や薬、草鞋(わらじ)などを売っていた。



有馬の八幡坂

#### 時代に翻弄された庚申坂 こうしんざか

梶が谷駅から旧大山街道を歩くと宮前生活環境事業所を過ぎ、二股に分かれる。左が長坂で右が庚申坂。坂の由来である庚申堂は、昭和16年ごろ旧陸軍東部62部隊の軍用地として接收された時に、馬絹に移された。江戸時代には大山詣での人々が庚申堂に道中立ち寄り、安全を祈ったと言われている。

(庚申塔の移動先はP48◎を参照)

#### 坂の今、昔 小台坂 こだいざか

現在はマンションが立ち並び、道路は道幅も広く整備されているが、昭和30年前後は道幅も狭く、急勾配で、両側の土手から清水が湧き出していた。一度長雨に降られると道路はぬかるみ、荷車の往来に支障をきたし、明治時代には通行が困難になり迂回(うかい)路に変更されることもあった。



撮影：小池 汪さん

昭和44年の小台坂

\*「ホントに歩く大山街道」(中平龍二郎著、風人社発行)、P76、P78、P86から引用

## 宮前区の街道

### 鎌倉街道 かまくらかいどう

鎌倉街道は、鎌倉幕府と各地を結ぶ道路であり、鎌倉と京都・北関東・東北・信越地方などを連絡していた。区内には、矢倉沢往還と重複したと推定される鎌倉街道中道が荏田方面から有馬・土橋・馬絹を経て溝口方面に連絡している。この他にも鎌倉街道の支線が枡形(ますがた)城・登戸方面に通じていた。枡形城は、源頼朝の重臣・稻毛三郎が守る、鎌倉防衛線上の役割を果たしていた。

伝承が残されている支線には、有馬の八幡坂(現鷺沼)から土橋・初山・生田緑地を経て枡形城に達するルートがあり、途中、頼朝に因(ちな)む茶筅(ちゃせん)松・鞍掛松・土橋などがあった。もう一つのルートは、荏田から石川・水沢・権現坂を経て枡形城・登戸方面に連絡していた。

#### 大山街道 おおやまかいどう



小台坂

大山道は、福島県の磐城、新潟県の魚沼、長野県の佐久・松本地方、静岡県や伊豆諸島などから相州大山を目指した信仰の道である。

阿夫利神社は延喜式内社の古社で、関東総鎮護として崇敬されてきた。大山寺は天平勝宝7(755)年に、東大寺の初代別当良弁が聖武天皇の勅願寺として開創したと言う。江戸時代中期になると、大山詣でが盛んになり日照りが続くと雨乞(ご)いを行い、また商売繁盛・航海安全・豊作豊漁などを祈願するため訪れるようになった。

区内を通過する大山道は、矢倉沢往還の大山街道と呼ばれ、30数ルートある大山道を代表している。街道の名称は、青山道・赤坂道・江戸道・厚木道などと呼ばれていた。矢倉沢往還は、慶長6(1601)年に徳川家康によって東海道の脇往還として整備された。東海道は大名・武士が多く通行し表街道的な存在であったが、矢倉沢往還は商人・農民が多く利用する裏街道的な存在であった。しかし矢倉沢往還は、駿河の茶・綿、伊豆の干し魚、秦野の煙草、相模川の鮎などを江戸に供給する経済的に重要な道であった。

現在、区の道路は都市開発のため土橋・有馬などで消滅している。一方、宮崎大塚付近、馬絹の小台坂、有馬の八幡坂などでは街道の面影を残している。

#### 王禅寺道 おうぜんじみち



十三坊塚の庚申塔(道標)

王禅寺道は、麻生区にある真言宗の寺に向う道で、古くから「東の高野山」として知られてきた。有馬の王禅寺道は、現在の有馬さくら公園付近で大山街道から分岐していたが、都市開発のため消滅している。有馬9丁目に残された馬頭観音には「右王禅寺道」「左大山道」と刻まれている。宮崎大塚を起点にする道は大山街道から分岐したあと、神木から尾根道に上り、けやき平・犬藏から菅生に抜けていたが、川崎市中央卸売市場北部市場付近で道路は消滅している。十三坊塚には道標を兼ねた庚申塔があり、神木本町には二十三夜供養塔が残されている。

## 宮前区の川

### 平瀬川 ひらせがわ

宮前区水沢3丁目の湧(わ)き水から始まる本流と、麻生区東百合丘の田園調布学園大学付近にある湧き水から始まる支川が、菅生小学校付近で合流する多摩川までの7.56kmの川である。

上流部では、毎年4月に「桜まつり」、7月に「七夕サミット」と平瀬川流域まちづくり協議会を中心にいろいろなイベントが行われている。本流上流部は、3月下旬から4月下旬にかけて、花見ができるいろいろな種類の桜並木がある。



平瀬川の桜



平瀬川の七夕サミット

### 矢上川 やがみがわ

宮前区水沢3丁目の川崎市中央卸売市場北部市場付近を源に、尻手黒川道路に沿って流れて鶴見川に合流する川。鶴見川まで4.48km。上流部は暗渠(あんきょ)が多く、目に見えるようになるのは東名高速道路下あたりからで、流域は住宅街に囲まれ、名もない小さな橋がたくさんかかっている。川の流れがはっきりするのは、JR梶ヶ谷貨物ターミナル駅付近となる。



### 有馬川 ありまがわ

宮前区鷺沼2丁目付近を源に、有馬・野川地区を流れ、高津区野川の五反田橋付近で矢上川と合流する川である。矢上川まで5.33km。上流部は暗渠(あんきょ)で、国道246号線あたりから川幅を確認できる。中有馬付近を中心に本流を暗渠にし、上部に親水川として遊歩道とする計画を立てたこともある。打越橋付近から川幅が広がり、横浜市都筑区との区境として流れている。



## 宮前区の谷戸 やと

宮前区は多摩丘陵に立地するため多くの谷戸が発達し、地形は起伏が激しい。谷戸は河川が丘陵を長い歳月にわたり浸食した地形で、斜面と谷底から構成されている。宮前区には、開発前に200以上の谷戸が残されていた。

### 飛森谷戸 とんもりやと

長沢浄水場東側から平瀬川に迫る約1.4kmの長い谷戸。二子谷(ふたごやと)、狼谷(おおかみやと)の枝谷(えだやと)を持つ。谷戸の入口にある本遠寺の背後にある尾根に鎌倉古道が残ると推定される。「飛森谷戸の自然を守る会」が谷戸の自然を守っている。



### 鶴ヶ谷 つるがやと

向ヶ丘遊園跡地付近から等覚院辺りまで延びる約1.3kmの谷戸。谷戸の名称は、ツルが羽ばたく形から付けられたと言う。谷戸にある御水は、等覚院の創建に伴う伝説を残している。

### 鷺沼谷 さぎぬまやと

有馬川の水源地であり、猪谷(むじなやと)・長谷(ながやと)・梅ノ木谷(うめのきやと)などの枝谷(えだやと)を持つ。谷戸には古い時代、人が住み着き、鷺沼長谷遺跡・鷺沼南遺跡・鷺沼遺跡が発見されている。

### 権六谷戸 こんろくやと

野川小学校付近から野川老人いこいの家辺りまで延びる半月状の谷戸。谷戸の原型を残していたが、近年、開発が進み急速に地形が壊されている。谷戸の旧家には板碑が残され、落武者伝説が伝えられている。

### 谷戸の語源

「ヤト」は山地を河川が浸食して作った地形で、急傾斜の斜面の下に細長い谷底が続き、湧(わ)き水のため低湿地帯が多い。関東地方を中心に広がる地名。「ヤ」は湿地を指し、「ト」は場所を示す言葉である。縄文海進期には、海の入江であったと考えられる場所が多い。「ヤツ」(谷津・谷)、「ヤチ」(谷地・谷内)も同源語であり、日本全国に広く分布している。従来、「ヤト」は「谷」と表記したが、難読のため最近では「谷戸」と記すことが多い。



## 宮前区のイベント

**響け!**

### みやまえ太鼓ミーティング

#### ～打つ 韶く 広がりふれあう まちづくり～

地域に根差した個性豊かで魅力ある文化の創造を目指し、平成11年から「響け！みやまえ太鼓ミーティング」を開催。区内で活動するグループが、民俗芸能や和太鼓演奏を披露するほか、太鼓体験コーナーもある。平成22年から宮前(みやさき)ねぶたも登場、雅な姿を披露している。



かがり火の中で和太鼓を演奏



宮前(みやさき)ねぶた

イベント

公園

自然

神社・仏閣

まちのスポット

お散歩コース

索引

イベント名	開催時期	開催場所	問合せ	概要
みやまえロビー コンサート	月1回	宮前区役所 2階ロビーなど	区役所地域振興課	毎時に開催する、多彩なジャンルのコンサート。
みやまえ 映像コンクール (上映会・表彰式)	2月	宮前市民館	区役所地域振興課	中学生向けの映像コンクール。
さぎぬま はるまつり	3月末～ 4月初旬	フロンタウン さぎぬま	フロンタウンさぎぬま	フットサルミニゲームや地元野菜の直販など。
さぎ沼 さくらまつり	4月	鷺沼駅周辺	さくらまつり 実行委員会 (さぎ沼商店会)	音楽演奏など各種イベントや屋台など。
宮崎台 ふる里さくら祭り	4月	宮崎台駅周辺	ふる里さくら祭り 実行委員会	パレードなど各種イベントや屋台など。
平瀬川 桜の集いと 鮎の放流	4月中旬	蔵敷親水広場 (菅生)	平瀬川流域 まちづくり協議会	子どもたちが吹奏楽や太鼓を演奏。稚鮎の放流も。
みんな集まれ 平瀬川 七夕サミット	7月	平瀬川各所、 菅生小学校体育館、 または 向丘小学校体育館	平瀬川流域 まちづくり協議会	平瀬川の清掃と各種発表会を実施。
響け！ みやまえ太鼓 ミーティング	8月	宮前市民館、 区役所市民広場	区役所地域振興課	区内の和太鼓のグループが演技を披露。
さぎぬま なつまつり	8月	フロンタウン さぎぬま	フロンタウンさぎぬま	フットサルミニゲームや縁日、地元野菜直販など。
夏休みこども あそびランド	8月下旬	宮前市民館	夏休みこどもあそび ランド実行委員会 (宮前市民館)	子ども向けイベント。 一部有料。
みやまえ子育て フェスタ	秋	宮前市民館	みやまえ子育てフェスタ 実行委員会 (宮前市民館)	おもに乳幼児の保護者向けのイベント。
しあわせを呼ぶ コンサート	9月	宮前市民館	区役所地域振興課	音楽を通じて、心のバリアフリーを目指すコンサート。
宮前区民祭	10月	川崎市中央卸売市場 北部市場、菅生緑地	宮前区民祭実行委員会 事務局(区役所)	100店以上の屋台・出店、パレードや舞台など。
さぎぬま ふゆまつり	12月	フロンタウン さぎぬま	フロンタウンさぎぬま	フットサルミニゲームや出店、地元野菜直販など。

※2012年3月時点の情報

## 宮前区民祭

### ～小さな手 大きな手 みんなで築く宮前区～

宮前区の誕生をきっかけに、区民の友情と連携を育むことを目指して昭和57年11月から開催。川崎市中央卸売市場北部市場会場では、各団体・グループの100店を超す出店・屋台が並び、パレードや舞台を披露する。菅生緑地会場では、子ども向けイベントを実施。毎年、多くの区民でぎわう。



北部市場会場でのパレード

## 歳時記みやまえ

月1回、区内のイベントなどを紹介する情報紙を発行。区役所などで配布するほか、ネット版もある。  
([http://www.miyamae-portal.net/mp/sajiki\\_miyamae/](http://www.miyamae-portal.net/mp/sajiki_miyamae/))

●問合せ：区役所企画課 ☎856-3133



